SS研の今後に向けた議論

1) 近未来の面白い技術は？

- 技術が発達すると”個別対応””個別生産”が可能になり、個人が本当に欲しいものが手に入る時代へ。医療分野や、3Dプリンターもその流れ。
- 人間の脳をコンピュータで再現。IBMワトソン(クイズ番組で人間のチャンピオンに勝利)のように人間の知識を凌駕し、医師や弁護しなどの職業さえ取って代わるコンピュータの実現。
- スパコンのバンド幅拡大で超リアルタイムで超ビッグデータを処理。天文台などのセンサーデータを瞬時に解析。そこからスパコンの新しい利用観点も発展。SS研の場でオープンイノベーションでこれを実現する。
- まず、スパコンの利用目的にデータ解析を入れること。人間のようにグラフや地図を見て一発で認識できるような人工知能の実現。いまのビッグデータ応用は従来のサンプリングによる統計処理レベル。本当のビッグデータ応用は、ロングテールにおける外れ値などを含めた解析にある。

2）SS研だから出来たことは？

- スパコン「京」の事業仕分け「2番でダメなんですか？」への対応。パブコメをSS研から発信したこと。これが、SS研の国や社会に向けた活動の発端。
- 以前はSS研での研究が富士通の技術に発展していた。いまそれができているかどうかは疑問。
- 興味・関心の幅が広がる場。学会でもユーザ会でもないことで、自分の専門外の方々との交流で新たな視点の気づきが得られる。
- 人脈形成が大事。そのためには懇親会も重要。SS研は研究の第一人者が集まる場。相談もでき、共同研究への発展も可能。
- 人脈形成。新しいスパコンに挑戦するときの関係者（ステークホルダー）間の一体感の醸成。
- 参加者層の高年齢化/固定化により活動が少々マンネリ気味か。新陳代謝が必要。若い人の意見を聞きたい。

3）今後のSS研を面白く有用なものにしていくには？

- 現在の3つの分科会以外に、「データ科学」「組織活性化 by IT」という切り口での活動がありうる。
- システム技術分科会と科学技術計算分科会の統合を検討しても良いのでは。今までの「HPC中心」という性格からの脱却も検討しては。
- 合同分科会を2つ（システム&HPC、システム&教育）に分けて開催しては。
- SS研は（昼間の真面目な議論を踏まえて)夜の会ですごいことが決まっていく醍醐味もあり、懇親会は大事。
- 人脈形成による会員自身の研究の発展と、政策提言(日本版HPC法制定など)はじめとする外への働きかけの両面が大事。
- SS研は日本のHPCにとって責任ある立場。富士通としても慎重に考えていく必要がある。